

サービス推進室では、医療安全に関する情報を収集し、看護現場で役立つポイント等を付加して提供しています。それぞれの現場に応じた点検ツールとしてお役立てください。

No.1

厚生労働省は、「オプジーボ」などの注射で使う高額な注射用抗がん剤について、1瓶で2回まで使用を認めるとする指針をまとめました。

指針が作成された背景のひとつに、これまで廃棄されていた残薬を安全に有効活用することで医療費削減を目指すことがある。液状の抗がん剤は「バリエーション」がある。通常1本の瓶から患者の体重・体表面積に合わせて抽出し、残薬を廃棄するよう添付文書に記載がある。

自民党行革推進本部が約1年前

定住も見込まれる製剤に限る。

ビネット [アイソレーター、調製ロボット等を含む。] という。) の使用が望ましいが、一般注射製剤室等 (ISO Class 8) に設置された BSC を使用することでもよい。

【要点 4】 安全に複数回使用するための調製方法

- ・ 日本病院薬剤師会監修「抗がん薬調製マニュアル」に準拠して、無菌調製を行う。
- ・ 曝露防止用閉鎖式薬物移送システム (CSTD) の使用が望ましい。
- ・ 同一バイアル製剤の複数回使用回数は、2回までとする。
- ・ 最初の針刺し後、バイアルを保管する場合、ゴム栓又は CSTD 接続部を消毒用アルコール綿で丁寧に消毒し、滅菌シール等により保護した上で、ジップ付きのプラスチック袋等に入れる。